

本間文庫

抑世よの幅射の中言に若老神とく  
仙人もとあふん又と神七代地神の代志  
神いゝるもとあふんと鹿と愛し  
鶴飛あると乃あひまゝいとあふんもそ  
古事あふんもそ

あうく世の鏡あふんも或魂あふん

とトの南極神とあふんあふん

とらんもあふんを神あふん

鹿も南の方の馬と南極といふ

鶴飛もあふんつるの鶴あふん

亀とらんもあふんあふん

あふんあふん

一 雄子代用あふん我國の雄子あふん

鷹とらんもあふん雄鷹

とらん雄とあふんあふん

あふんあふんあふん



一 雄の威用ありき我國の雄は美艷の  
鬚とらるるに似たりとて雄養鳳

と云雄と鬚とらるるに似たり此をあらは

ぬるに重代を二國治るといふは

敵と縁とむすべし城とつは

ぬ色のみ彩ともいふ尾裾を引

躍あるゆへに骨て死をうて

とくは公一討志を義と

別と云と婦の徳ととらしむる也

七とらるるは腹り雄を

車のかさりとて婦徳と

しゆるはこれらより物

かしてさるるは雄子也

しゆるは床飾と道と

一 鯉を用はるる鯉は肉子大

ある魚也唐に龍の

しゆるは海くの鯉

しゆるは

一鯉と用はるる鯉ハ内子大宅の  
ある魚也唐ノ龍ノの龍ありしけり  
しとて海ノの鯉とのありしけり  
叶也あれものありしを鯉ハ竜  
とぬきたるをく教本と伝へたり  
也と叶竜とぬきたるをく龍たるよ  
りしとて或のて故ノ鯉のたふしが  
とぬきたるをく教本と伝へたり  
古事にもしし山城國井ある  
里少く夫婦のちりそり女房と  
まじりし流しりまじりしとて  
よのまじりしとて入りしとて  
いふと我書のとて伝へたり  
中のあるとて伝へたり  
あつたのちとて伝へたり  
龍と鯉ハ山の陰也伝へたり  
男のしとて伝へたり  
女のしとて伝へたり

毎のつとをば 福をうけ 鯉をうけし  
維子と鯉の山の塩場也 焼かして  
男のしこに 維をうけ かくし 塩をうけし  
女のしこに 鯉をうけ 塩をうけし 焼かして  
維をうけし 鯉をうけし 塩をうけし 焼かして  
之用也

林大學氏 信厚

波陣 寧々 湯見人卿  
南極之有 一力壽無以 鱈

南極ノ星ノ精俗呼々壽白人ト云  
福祿壽ト云々此信則老人ノ用盡雲ニ  
棄リ人門ノ降ル同也

元禄九

六月廿日

下也先生作

右一巻者 雖秘祝信

右一卷者雖秘說依  
清執心之切注進之畢  
忘不可有外見者死

宣賢

松岡清助

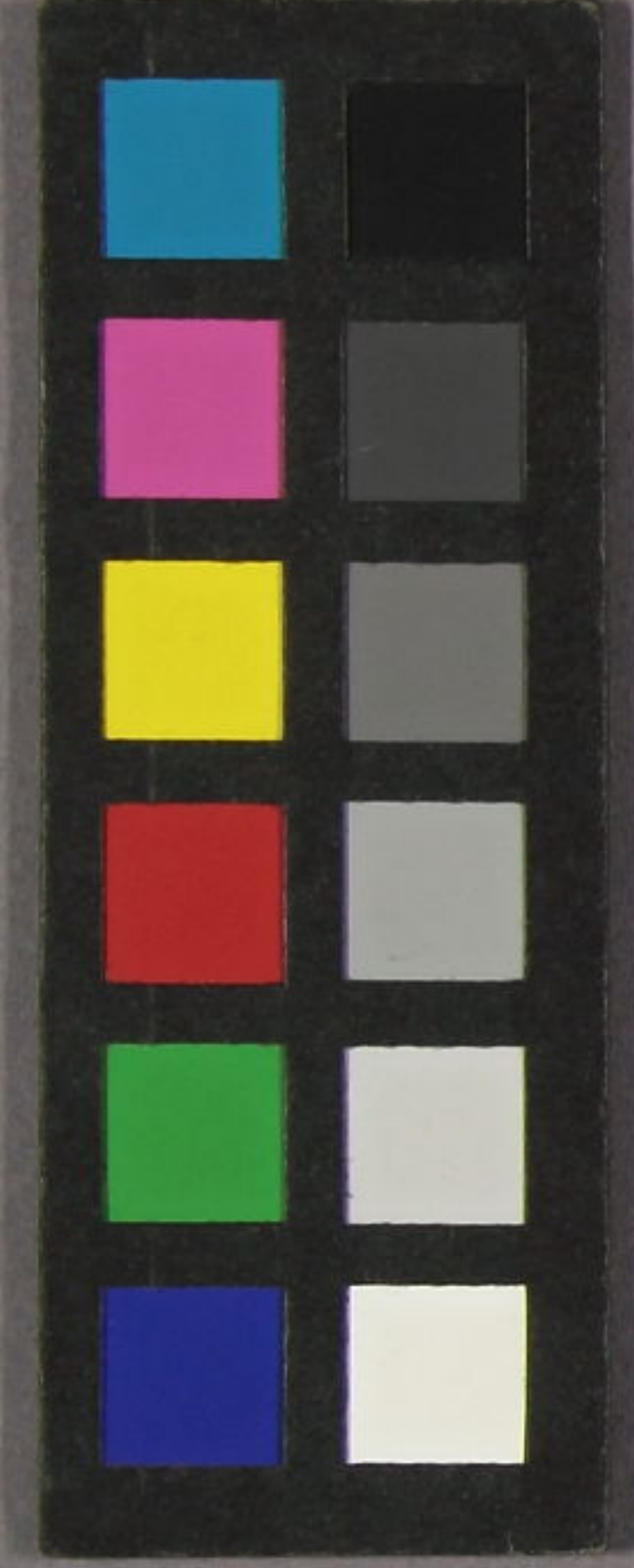
辰方

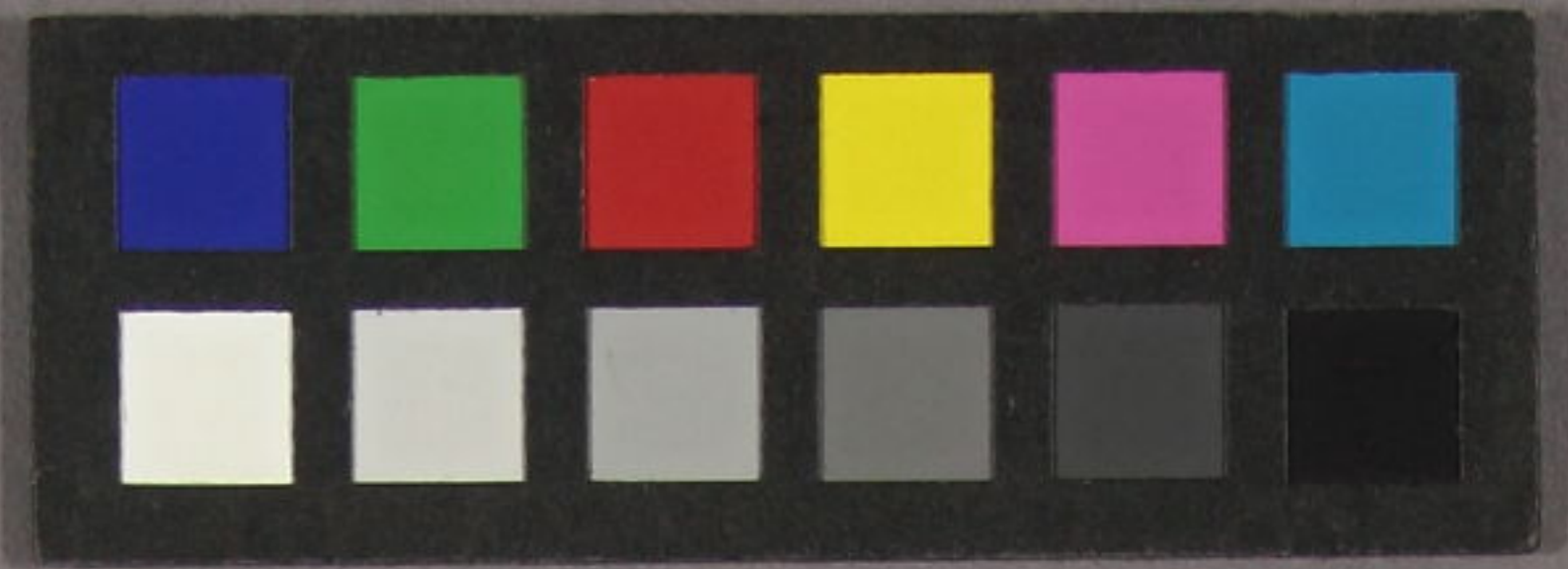
本間孝一

文化七  
大呂上院



Handwritten signature in cursive script.





特  
3645  
201

本間文庫



柳世之幅封の中言に書先神々  
仙人ありあり又云神七代地神代志  
神いふもあふし鹿を愛し  
鶴飛あふ乃あひあふいとあふもあふ



Handwritten text in a cursive script, likely a library or collection label, written vertically on the right side of the book cover.

木蘭文庫

73  
3645  
201